

Psychiatry and Clinical Neurosciences

Psychiatry and Clinical Neurosciences, 76 (2) は, Review Article が 1 本, Regular Article が 1 本掲載されている. PCN 編集委員会の監修による日本語抄録を紹介する.

Review Article

A systematic review and meta-analysis of the mental health symptoms during the Covid-19 pandemic in Southeast Asia

S. Pappa*, J. Chen, J. Barnett, A. Chang, R. K. Dong, W. Xu, A. Yin, B. Z. Chen, A. Y. Delios, R. Z. Chen, S. Miller, X. Wan and S. X. Zhang

*Division of Brain Sciences, Imperial College London, London, UK

東南アジアにおける COVID-19 パンデミック中のメンタルヘルス不調の症状に関する系統的レビューおよびメタアナリシス

【目的】 COVID-19 パンデミックは世界中の一般市民およびハイリスク集団のメンタルヘルスに多大な影響を及ぼしてきた. 東南アジアは中国に近接し, 密接に関係していることから, アウトブレイクの影響を受けた最初の地域となった. 本系統的レビューの目的は, パンデミックの最初の年における東南アジアの一般成人集団および医療従事者 (health care workers: HCW) の不安, 抑うつ, および不眠の有症率を評価することであった. 【方法】 2021 年 2 月までに公表された論文について, 複数の文献データベースで系統的に検索し, レビュアー 2 名が独立してあらかじめ定められた評価基準を用いて関連するすべての研究を評価した. メンタルヘルス不調の有症率は, ランダム効果メタアナリシスモデルによって算出した. 【結果】 合計 20,352 名の参加者を有する研究 25 件から 32 サンプルを組み入れた. 不安は 25 件すべての研究で, 抑うつは 15 件の研究で評価され, 統合有症率はそれぞれ 22% および 16% であった. 不眠

を評価した研究は 2 件のみで, 有症率は 19% と推定された. 不安および抑うつの有症率は最前線の HCW (18%), 一般 HCW (17%), 学生 (20%) で同様であったが, 一般集団で顕著に高かった (27%). 【結論】 本研究は東南アジアにおける COVID-19 パンデミックのメンタルヘルスに対する影響を調査した初めての系統的レビューである. 一般集団および HCW のかなりの割合が軽度~中等度の不安および抑うつ症状を報告した. 一方, 統合有症率の評価では, 中国や欧州などの報告より有意に低い有症率にとどまった.

Regular Article

The impact of HTR1A and HTR1B methylation combined with stress/genotype on early antidepressant efficacy

Z. Xu*, Z. Chen, T. Shen, L. Chen, T. Tan, C. Gao, B. Chen, Y. Yuan and Z. Zhang

*Department of Psychosomatics and Psychiatry, ZhongDa Hospital, School of Medicine, Southeast University, Nanjing, China

HTR1A および HTR1B のメチル化とストレス/遺伝子型との組み合わせが抗うつ薬の早期効果に及ぼす影響

【目的】 抗うつ薬は大うつ病性障害 (major depression disorder: MDD) に有効であるが, 抗うつ薬に反応しない患者も多い. 5-HT1A (HTR1A) および 5-HT1B (HTR1B) の両受容体は抗うつ薬の活性に重要な役割を果たす. 一方, DNA メチル化は MDD と抗うつ薬の有効性に関連する. 本研究では, HTR1A および HTR1B のメチル化とストレス/遺伝子型との組み合わせが抗うつ薬の有効性に及ぼす影響について調査した. 【方法】 MDD 患者 291 名および健常対照者 100 名が, ストレス評価としてライフイベント尺度 (Life Event Scale: LES) およ

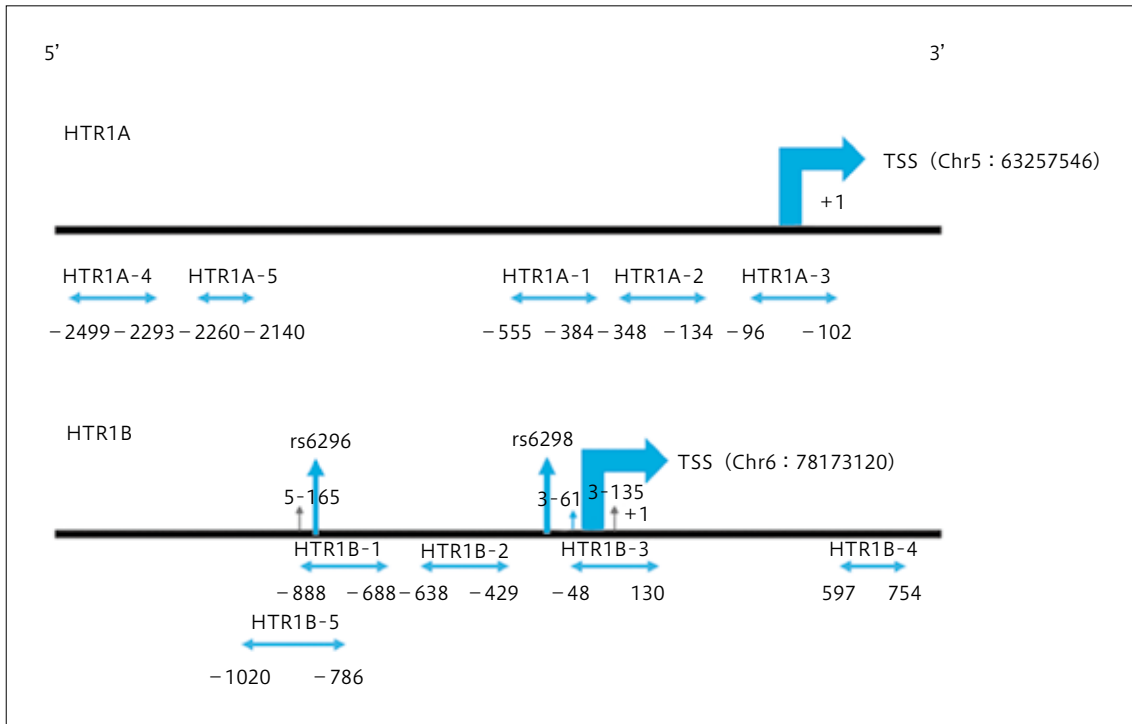


Figure 1 CpG regions sequenced around promoter of HTR1A/1B. Blue lines with arrows indicate selected CpG regions analyzed in this study, all of which locate in CpG islands around gene promoters. Range of each region is indicated by its relative distance (in bp) to TSS.

(出典：同論文, p.53)

び幼少期トラウマ質問票 (Childhood Trauma Questionnaire : CTQ) を受けた。抗うつ薬の機序に関与する HTR1A および HTR1B の 8 個の一塩基多型 (SNPs) を検査した。メチル化状態について HTR1A および HTR1B の 181 のシトシン-リン酸-グアニン (cytosine-phosphate-guanine : CpG) 部位を分析した。2 週間の抗うつ薬治療後、全 MDD 患者を反応 (RES) 群と非反応 (NRES) 群に分けた。メチル化、NLES (ネガティブ・ライフイベント)/CTQ スコア、遺伝子型の相互作用につい

てロジスティック回帰分析を行った。【結果】サブグループでは HTR1A-2-143 の低メチル化が抗うつ薬の良好な有効性に関係する。低い CTQ スコアを伴う HTR1A-2-143 の低メチル化が抗うつ薬の良好な有効性に関係する。HTR1B の高メチル化と rs6298AA/AG 遺伝子型との組み合わせが抗うつ薬の良好な有効性に関係する。【結論】HTR1A および HTR1B のメチル化とストレス/遺伝子型との組み合わせは抗うつ薬の有効性に関連する。